Hôtel d'Angleterre
St. Petersbourg.

特別
14
2090
52 (12)

去る十五日当地へ着きてからもう[illegible]きとなる其後今日まで毎日朝から晩迄宿を探しまはりたれど思ふ様なものが見当らずさりとて泊ってゐるホテルの部屋代は一日五円の極めて法外なればどうしても五円払ひかゝりはいつまでもぐづぐづしてゐられず拠ところなく余り気に入らねど下宿と極めて出で了ひたりやはり前便の様室を選び大連やハルビンに逗留しモスコウにも三日居たる為旅費が非常に嵩みたり未だ細かな勘定はせざれど掛りの高きより推すときは余り掛りすぎしと何が実費と云ふ程来で実際掛りたる丈を社で出す元となりへチトいひにくき感あり当惑なる所は右のこと更りかんとも致しがたし宿の便に手紙をいうてやる

續きは

当地の様子はいづれ落着いてからゆつくり申

遠らんきゞりでは非常にお違ひしゐる所は気候みは陽暦あひ着でゐるに今ふと寄きさるに違ひなく今も例の旅のフロックを着てをれど寒さへせねば一向に暑からず外出しても馬車に乗れば汗などかくと云ふ事もなく只日は非常におそく入りて非常に早く出でやはり九時ごろにも室内でもよろく電気をつける必要あれど全くは暗くなるも十一時ごろにてもあるべし二三時間眠りて早二時ごろにはもう夜が明けやはりぱつと暑中元諸官省も休暇なれば大抵の人は田舎へ参り居るとかにて市中もさびれたると申せど往来に馬車の音の絶ゆることなくなかなか繁華なものに候建物は総て御存の通り三層四層五層まで二階のは少なくそれに石にて入る礼の高き塔が聳え居れば始めて此地に来し時などは田舎者の東京見物のやうにキョロキョロしてゐたりやはこれから思ふと銀座通りなどは見られたものにあらず西洋人の日本をみくびるも仕方なしと絶

途中は始終おまへモスコウに居る時一寸一日位の進まぬ事ありしかどそれも一ちの事で

薬ものまぬ中にすつかりひとり昔の如に
一夜も蚊帳の要かりしことなく机に向て汗
を催さぬせゐか夜もよく眠られ申候その他
まゝ皆々達者なるや暑中ゆゑ母上も少
しおやせならん宿坊健坊もお変らずヤンチヤ
を申居ることならんと他所の子供を見るたびに
思ひ出し申候

当地の物價は想像して居る通り中々高く
関口淋し長の道中にてハンケチを汚(よご)してる
ひどく汚れもスコうるにて一ダース買ひとるに八円
五十錢取られ申候尤もこれは箱入りのやつは
当地へ来りてホワイトを一枚(マイ)買ひ、それにボタ
ンがいつもの通りつけて係りなりともなく居る
かへボタンのないのでひどいと申候一様に
めはところ~~★~~ホワイトとも九円だけかし取
られ申候比較的やすきは馬車賃にて家から
船宿の石川橋まで位の所へ四拾銭とられ
三十銭でも来り申候

くらわ宿しこゝるゝなど相模屋の家は一寸な
れど十畳敷位の広さにて陽に寝台を
据ゑ之と屏風にて囲ひ其中に洗面台も
ありて而も屏風の中にて洗ふ譯(ワケ)には机も椅子
も長椅子も衣服入もランプまで一通りの道
具は備へありて一ヶ月の貸間料四十円
の極めて只今は主人が留守にて食ひものを
拵へさせざれども帰つて来れば晩飯一食六
十銭位にて引受け呉れるよし二食喰へば
併し朝は食パンに菜は纔に諸言位にて済ま
し晩飯だけ世話にならんと存居候さうすれ
ば生活は六七十円位であがるべきか、それ
ほど倹約せねばとてもやりきれぬ申候
引越しまして居るゆゑ此度はこれだけ
にて委しき事は書封にて申しまゐる其後の
家の様子ともおしらせ給へし

七月十七日

龍之助

柳子どの